

トピックス

■「おかやま地域発展協議体」の設立式を実施

本学が構成メンバーに含まれる「おかやま地域発展協議体」（委員長：荒木勝本学理事・副学長）は4月19日、津島キャンパスで設立式を実施し、学内外から同協議体の委員ら約40人が参加しました。

同協議体は、岡山県内の産官学民が連携、協働して地域が抱える種々のニーズや課題に関する検討・研究を行うプラットフォームとして4月1日に設立。本学以外に、岡山県商工会議所連合会、（一社）岡山経済同友会、岡山県、岡山市、倉敷市、中国銀行、山陽新聞社で構成されています。

設立式では、森田潔学長らが、協議体の事務局を務める本学地域総合研究センターの入り口に看板を上掲しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5706.html



最近の大学の取組

■異分野基礎科学研究所を新設 基礎科学分野で世界トップ100へ

本学は4月1日、本学の強みである「物理学」と「基礎生命科学」の研究基盤を強化するため「異分野基礎科学研究所」（Research Institute for Interdisciplinary Science）を津島キャンパスに新設しました。

本研究所は、量子宇宙・ニュートリノ研究、光合成・構造生物学、超伝導材料・デバイス科学研究を一体的に進め、基礎物理学から基礎生命科学を貫く異分野交流の視点をもって基礎科学分野の研究を推進します。また、世界トップレベルの大学・研究所との国際共同研究の推進によって、新たなイノベーションを生み出し、物理学・生命科学分野において世界トップ100位入りを目指します。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id367.html



■惑星物質研究所を開所 宇宙で採取した物質の解析技術で世界をリード

本学は4月1日、旧地球物質科学研究センター（鳥取県三朝町）の活動を国際共同研究教育拠点として一層活性化させるため、組織体制を拡充。同センターを国際共同研究拠点「惑星物質研究所」（Institute for Planetary Materials）へと改組しました。

本研究所では、生命の起源に関わる物質科学ならびに流体関連物質科学という新しい研究分野を加え、より広範かつ統一的な地球・惑星物質科学を開拓・実践し、国内外の研究者の集う「場」の提供と、それを活かした国際的環境における大学院教育をより強力に推進します。

また、本研究所は4月8日、小惑星探査機「はやぶさ2」が2020年に地球に持ち帰る予定の試料解析などで協力体制を強めることを狙いに、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙科学研究所と連携協定を締結。本連携協定では、太陽系探査ミッション、小惑星などのサンプルリターンミッションに関連する物質科学研究を推進する実効的な研究協力体制を構築し、次世代研究人材の育成・活用に向けた活動を両者の緊密な連携のもと精力的に実施していきます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id366.html



■「子から働く親へのエール」の受賞論文を本学ホームページに掲載

本学と岡山経済同友会が平成27年12月から平成28年1月にかけて募集した「仕事を続けてくれてありがとうー子から親へのエール」の論文コンクールの受賞作品集を本学ホームページに掲載しました。高校生と大学生の視線で描かれた子育てエピソードと感謝のメッセージは目頭を熱くしますので、ぜひご覧ください。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5668.html



最近注目の研究

■メタボと糖尿病の発症を予防する細胞接着分子を特定

医歯薬学総合研究科（医）腎・免疫・内分泌代謝内科学分野の和田淳教授、国立療養所邑久光明園の村上和敏内科医長（米国シンシナティ大学研究員）らの研究グループは、細胞接着分子である「ACAM（エイキャム）」がメタボリックシンドロームと糖尿病の発症を予防することを世界で初めて突き止めました。本研究成果は、アメリカの科学雑誌「Diabetes」の電子版に掲載されました。

メタボリックシンドロームや2型糖尿病に伴う虚血性心疾患、脳梗塞、慢性腎臓病の予防は、国民の健康増進のために極めて重要な課題です。今後、細胞接着分子を用いた新たな治療法の開発が発展すれば、肥満・糖尿病を予防し、健康寿命の維持・延長につながると期待されます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id384.html

■新規スクリーニング法を用いて抗うつ薬に悪性脳腫瘍への治療効果を発見

医歯薬学総合研究科（医）細胞生理学分野の道上宏之助教、松井秀樹教授、岡山大学病院林桂一郎非常勤講師らの研究グループは、既存薬再開発（DR）を利用したスクリーニングにより、抗うつ薬の一つに悪性脳腫瘍の治療効果の可能性のある事実を見いだすことに成功しました。本研究成果は、英国の科学雑誌「Scientific Reports」電子版で公開されました。

今後、更に実験を積み重ね、岡山大学病院脳神経外科と協同して臨床試験を行い、悪性脳腫瘍患者治療薬としての実現・普及を目指しています。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id389.html

■極めて高活性な有機分子触媒の開発に成功ー触媒使用量が数十分の一にー

自然科学研究科（工）の萬代大樹助教、藤居一輝大学院生（博士後期課程2年）、菅誠治教授らの研究グループはエナンチオ選択的1)なアシル化反応を促進する極めて活性の高い有機分子触媒の開発に成功しました。本成果は4月15日（英国時間午前10時）、イギリスの科学雑誌「Nature Communications」電子版に掲載されました。

本技術は多様な生物活性化化合物の合成に適用でき、医薬品や農薬などのファインケミカル分野で応用研究が進捗すると期待されます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id385.html

行事予定

・パネル展「池田家と大坂の陣」5月11日～ 中央図書館

岡山大学公式ホームページ

<http://www.okayama-u.ac.jp/>

岡山大学 Facebook ページ

<https://www.facebook.com/OkayamaUniversity>

岡山大学 Twitter

https://twitter.com/okayama_uni

岡山大学チャンネル

<https://www.youtube.com/user/okayamaunivpr/videos>

【お問合せ先】 岡山大学広報・情報戦略室

Tel : 086-251-7292, 7293 Mail : www-adm@adm.okayama-u.ac.jp